

安全データシート

SDS No. 1021-34249

作成日 2000年 3月22日
改訂日 2017年 7月18日 1/4頁

1 化学品及び会社情報

化学品の名称 : 2, 4, 5-T (2, 4, 5-トリクロロフェノキシ酢酸)
提供者名 : ジーエルサイエンス株式会社
住所 : 東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー30F
電話番号 : 03-5323-6611
FAX番号 : 03-5323-6622
製品コード : 1021-34249
緊急連絡先 : ジーエルサイエンス(株)福島工場 品質保証課 電話 024-533-2244(代表)
整理番号(SDS No.) : 1021-34249
推奨用途及び使用上の制限 : 試験・研究用

2 危険・有害性の要約

GHS分類 : 急性毒性(経口) : 区分4
急性毒性(経皮) : 区分4
皮膚腐食性及び皮膚刺激性 : 区分2
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 : 区分2
生殖毒性 : 区分1
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分3(気道刺激性)
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分1(皮膚)
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分2(腎臓、免疫系)
水生環境有害性(急性) : 区分1
水生環境有害性(長期間) : 区分1

GHSラベル要素 :



注意喚起語 : 危険
危険有害性情報 : 飲み込むと有害
皮膚に接触すると有害
皮膚刺激
強い眼刺激
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
呼吸器への刺激のおそれ
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害(皮膚)
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(腎臓、免疫系)
水生生物に非常に強い毒性
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き

[安全対策]

: 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
取扱い後は手をよく洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
環境への放出を避けること。

[応急措置]

: 飲み込んだ場合: 気分が悪いときは医師に連絡すること。口をすすぐこと。
皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹼で洗うこと。直ちに医師に連絡すること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して
いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合: 医師の手当てを受けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の手当てを受けること。
気分が悪いときは医師の手当てを受けること。
吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
漏洩物を回収すること。

- [保管] : 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。
- [廃棄] : 内容物や容器を適切な焼却炉で焼却するか都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄処理業者に委託処理すること。

上記で記載がない危険有害性は分類対象外、分類できないまたは区分外。

3 組成及び成分情報

- 化学物質・混合物の区別 : 化学物質
 化学名(又は一般名) : 2,4,5-トリクロロフェノキシ酢酸
 別名 : 2,4,5-T、(2,4,5-Trichlorophenoxy)acetic acid
 含有率 : 100%
 化学式又は構造式 : C₈H₅Cl₃O₃
 分子量 : 255.48
 官報公示整理番号 : 設定されていない
 CAS No. : 93-76-5
 危険有害成分 : 2,4,5-トリクロロフェノキシ酢酸

4 応急処置

- 吸入した場合 : 新鮮な空気の所へ運び、安静保温に努める。医師の手当を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 石鹸と多量の水で洗い流す。直ちに医師の手当を受ける。
- 眼に入った場合 : 直ちに大量の水で少なくとも15分以上眼を洗う。コンタクトレンズを容易に外せる場合は外して洗うこと。医師の手当を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 水でよく口の中を洗浄する。医師の手当てを受けること。
- 急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状 : 刺すような痛み、涙目、目の赤み、腫れ、かすみ目などの視力低下の症状が出る。皮膚刺激により、発赤や痛みの原因となる。
- 応急措置をする者の保護 : 救助者は保護具を着用すること。

5 火災時の措置

- 消火剤 : 粉末消火剤、耐アルコール泡消火剤、二酸化炭素、水噴霧
- 使ってはならない消火剤 : 棒状放水
- 火災時の特有危険有害性 : 火災時に刺激性もしくは有毒なヒューム(またはガス)が発生するため、消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。
- 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。消火活動は、可能な限り風上から行う。消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な処置をする。
- 消火を行う者の保護 : 消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。呼吸保護具を着用する。

6 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、粉塵の皮膚へ付着したり吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。こぼれた場所は滑りやすいために注意する。
- 環境に対する注意事項 : 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
- 回収、中和 : 漏出した製品は、濡れたウエス、雑巾などに吸着させるか掃き集めて空容器に回収し、その後を多量の水を用いて洗い流す。

7 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 屋内作業場における取扱い場所では、局所排気装置を使用する。
- 安全取扱注意事項 : 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵を発生させない。吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。使用後は密閉して保管すること。取扱場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 衛生対策 : 取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。休憩場所には手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいない。

保管

適切な保管条件	: 容器は直射日光を避け、冷暗所に密閉して保管する。
避けるべき保管条件	: 加熱、触危険物質との接触。
混触危険物質	: 強酸性物質、強酸化剤など
安全な容器包装材料	: ガラス等

8 ばく露防止及び保護措置

設備対策	: 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、局所排気装置を設置する。 取扱い場所の近くに、目の洗浄および身体洗浄のための設備を設置し、その場所を表示する。
管理濃度	: 設定されていない
許容濃度	
日本産業衛生学会	: 設定されていない
ACGIH TLV	: 10mg/m ³
OSHA PEL	: 10mg/m ³
保護具	
呼吸器の保護具	: (換気が悪い場合などは)呼吸器マスク
手の保護具	: 保護手袋(耐薬品性)
目の保護具	: 保護眼鏡(必要に応じてゴーグル型)
皮膚及び身体の保護具	: 長袖作業衣、保護長靴
適切な衛生対策	: マスク等の吸着剤の交換は定期又は使用の都度行う。

9 物理的及び化学的性質

形状	: 固体(結晶性)
色	: 白～オフホワイト
臭い	: データなし
pH	: データなし
融点	: 153℃
沸点	: データなし
引火点	: データなし
爆発限界	: データなし
蒸気圧	: 0kPa(20℃)
蒸気密度(空気=1)	: データなし
比重	: 1.80g/cm ³ (推定)
溶解性	: 0.3g/L(水)
オクタノール／水分配係数log Po/w	: 4
自然発火温度	: データなし
分解温度	: 140℃

10 安定性及び反応性

安定性	: 適切な条件下においては安定。
危険有害反応可能性	: 通常の条件下で安定。
避けるべき条件	: 日光、熱、混触危険物質との接触
混触危険物質	: 強酸化剤
危険有害な分解生成物	: データなし
推奨用途及び使用上の制限	: 試験・研究用

11 有害性情報

急性毒性(経口)	: ラット LD50=500~750mg/kg(DFGOT vol. 11, 1998)
急性毒性(経皮)	: ラット LD50=1535mg/kg(RTECS, 2005)
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	: 皮膚を刺激するとの記述がある(ICSC(J)(1995), HSDB(2005), HSFS(2001), SITTING(4th, 2002))。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	: ラットの眼を強く刺激するとの記述(DFGOT vol. 11, 1998)、ならびに眼を刺激するとの記述がある(ICSC(J)(1995), HSDB(2005), HSFS(2001), SITTING(4th, 2002))。
感作性	: データなし又はデータ不足
生殖細胞変異原性	: 優勢致死試験、染色体異常試験、小核試験で陰性の結果(DFGOT vol. 11(1998), IARC 41(1986), IARC Suppl. 7(1986))。

発がん性	: Chlorophenoxy herbicidesが2Bに分類 (IARC(41, 1987)) が、ACGIHでA4(ACGIH 7th, 2001)に分類されている。
生殖毒性	: 疫学調査において催奇形性または流産の増加を示す結果は得られていないとの記述がある (ACGIH(7th, 2001), DFGOT(vol. 11, 1998))が、マウスおよびラットを用いた試験においては親動物に一般毒性が認められない用量で明確な生殖毒性が認められたとの記述がある (DFGOT(vol. 11, 1998))。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 気道を刺激するとの記述がある (ICSC(J) (1995), HSDB(2005), HSFS(2001), SITTING(4th, 2002))。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 製造作業者に塩素ざ瘡(chloracne)が認められるとの記述がある。また、ラットを用いた経口投与試験で腎臓への影響および白血球の減少が区分2のガイダンス値範囲で認められたとの記述 (DFGOT vol. 11, 1998)、ならびにイヌを用いた経口投与試験でリンパ球の減少が区分2のガイダンス値範囲で認められたとの記述がある (ACGIH(7th, 2001))。
吸引性呼吸器有害性	: データなし
1 2 環境影響情報	
水生環境有害性(急性)	: 魚類(ニジマス) LC50=0.98mg/L/96h(HSDB, 2004)
水生環境有害性(長期間)	: 生物蓄積性が低いと推定される(log Kow=3.31)ものの、急速分解性がないと推定される。
残留性/分解性	: 急速分解性がないと推定される (BIOWIN)。
生態蓄積性	: log Kow=3.31で蓄積性が低いと推定される (PHYSPROP Database, 2005)
土壌中の移動性	: データなし
オゾン層への影響	: 当該物質はモントリオール議定書に掲載がなく、オゾン層破壊物質に該当しない。
1 3 廃棄上の注意	
残余廃棄物	: 廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。 なお上記方法による処理が出来ない場合は都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
汚染容器及び包装	: 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。
1 4 輸送上の注意	
国連番号	: 3345
品名	: フェノキシ酢酸誘導体殺虫殺菌剤類(固体)(毒性のもの)
国連分類	: 6.1(毒物類)
容器等級	: III
注意事項	: 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。 転倒、落下、破損がないように積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。
海洋汚染物質	: 該当
1 5 適用法令	
毒物及び劇物取締法	: 指定令 劇物 No. 74-2
労働安全衛生法	: 施行令 第18条 名称等を表示すべき危険物及び有害物 別表第9 No. 390 施行令 第18条の2 名称等を通知すべき危険物及び有害物 別表第9 No. 390
化学物質排出把握管理促進法	: 非該当
化審法	: 非該当
消防法	: 非該当
船舶安全法(危規則)	: 毒物類
航空法	: 毒物類
1 6 その他の情報	
引用文献	独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム有害性評価書 安全衛生情報センター 化学品安全管理データブック 化学工業日報社 16514の化学商品 化学工業日報社(2014) 他

記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。